

図書館だより

第6号

奈良県立商業高校図書館
令和5年10月発行



リレーコーナー

「確率・統計を学んで「社会のウソ」を見抜こう」 数学科 藤本 龍

クラスに同じ誕生日の人はいますか？

もし、いた場合は「これは運命だ!」と思うかもしれませんが、しかし、確率を学んでいるとこんな事が分かります。クラスに23人以上いた場合、50%以上の確率で同じ誕生日の人がいます。ここでは、難しい数式を省きます。

他にも、ある学習塾の合格者の「数」が前年度と比べて2倍になりましたという看板を見れば皆さんはどう思いますか。

その塾の質が上がったと感じますか。合格者が増えれば塾の質は単純に上がるのでしょうか。ここで、疑問点は生徒の人数です。生徒数も2倍になったとすると、合格者の割合は変わっていないこととなりますね。このように、意図的に都合の悪いデータを伏せるように、都合のいいことをいうケースはたくさんあります。

数学の中には「確率・統計」という分野があります。

確率・統計はビジネスパーソンの必須科目です。確率・統計の2つの共通点をあえて一言でいうならば、「不確実なもの」を扱う分野です。世の中は分からないことだらけです。特に未来に関する事で、確実に分かることはほとんどありません。

そこで、「分からないから諦める」、「分からないなりに考える」では大きな差が出ます。偶然起こったことに見えるものに対して数学で考えていこうというアプローチを取るのが確率・統計です。

この詳細は、『難しい数式はまったく分かりませんが、確率統計を教えてください!』ヨビノリたくみ著 SBクリエイティブという本に紹介されています。ぜひ一度読んでみてください。



新着図書案内

『グランドシャトー』 高殿円著 文春文庫

2023年大阪ほんま本大賞受賞作!

光の城キャバレーグランドシャトーを舞台にホステス・ルーが深い悲しみを胸に秘め輝く。物語のラストに、ルーが姉のように慕うNO.1ホステス真珠の秘密が明かされる。男の作った城キャバレーが街と女の生き様を照らし出す。切なく悲しくそして温かい《ひかり》の物語。



私のペースで しおりは進む

2023・第77回 読書週間
10/27～11/9



朝の読書週間 令和5年10月23日(月)～27

みんなで好きな本を読もう!



図書委員のいちおし図書

2年4組 梶本 玲生

僕の好きな作家は住野よるです。

代表作の『君の脾胃をたべたい』双葉社を紹介します。

「桜良の死ぬ前にやりたいこと」に付き合っていくうちに、「僕」、桜良と正反対の性格の二人が、お互いに自分には欠けている部分についてそれぞれ憧れを持つようになり、次第に心を通わせて成長していく。そして「僕」は「人を認める人間に人を愛する人間になること」を決意するという物語です。

この小説は映画にもアニメにもなっているので知っている人も多いと思います。僕はこの本を読んで住野よるさんを好きになりました。



街の本屋さんを探検しよう

令和5年9月1日(金)に図書委員5名が近鉄百貨店橿原店6Fにあるジュンク堂書店を探検し、それぞれおすすめの本を購入した。読書週間にはポップを描き、図書室に本を展示し紹介する予定。



・初めてお店に入ってすごく広いなと思い、本を探すのにワクワクしました。なかなか本に包まれることがなかったので、すごく楽しかったです。(1年5組 澤上美咲)

・本から離れて暮らすことが増え、知りたいことに立ち止まることをしていなかった私にとってとても貴重な時間でした。
・人のために本を選ぶことは誰かを想うことにつながり、心を豊かにしてくれる。本の「読む」以外の楽しみ方を知れたような気がしています。
・「みんなに読んでほしい本」を意識して本屋を歩くことで、自分がどんな価値観でどんな人と関わりたいのかを知り、自分を見直すことが出来ました。
・「この本を読んでこう感じてほしい。好奇心を育ててほしい」と思い選書しました。(3年4組 中島 彩)
・値段をあまり気にせず、本を買えて楽しかったです。また自分の選んだ本が図書室に加わると思うとワクワクしました。(3年2組 森本美空)
・たくさんの本に触れることができ、悩みながらおすすめする本を選んだことが楽しかったです。(3年1組 石崎美偉人)